

「春季 彼岸法要の案内」



令和4年3月

◇両讚寺春彼岸法要

令和四年

三月二十日（日曜日）

午後六時 開始

場所 両讚寺

○御回向承り日程

・三月十八日 午後二時より

・三月十九日 終日

・三月二十日 終日

(十八日は午前中諸用の為、右記

時間より承っております。

十九日、二十は終日承って

おります)

◇恵心寺春彼岸法要

令和三年

三月二十一日（春分の日）

午後七時半 開始

場所 恵心寺



両讚寺
恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

昨年十一月、お十夜法要の日に本堂の奥から一服の掛軸が見つかりました。

江戸時代後期、当時の両讚寺住職が京都の本山である百万遍知恩寺より授かったと思われる掛軸です。

百万遍知恩寺に伝わる「利剣名号」の版本を表装したもので、版の状態も良く、本山の印も押してありました。

「利剣名号」（りけんみょうごう）というものは、かの弘法大師空海が剣に見立てて書いたとされる、「南無阿弥陀仏」です。

剣に見立ててある通り、悪縁を断ち切るご利益があると言われ、長年宮中の秘宝とされてきました。しかし、今から約七百年前の

一三三一年、京都が大地震に見舞われ、疫病が流行ります。

そこで、当時の帝である後醍醐天皇は、空圓上人という高僧に疫病退散の祈願を命じ、この宮中に秘蔵されていた「利剣の名号」を掲げ、百万遍にも及ぶ念仏の修行を行い、その護符を配られました。

すると、たちまちに疫病が治まり、以来「利剣名号」は百万遍知恩寺の秘宝になったと伝えられております。

江戸時代、当寺の住職がその版を本山より授かり、何かの儀式に使用していたことが、掛軸の裏書きより推測されます。

その「利剣名号」ですが、修復が完了しましたので、今年の春彼岸法要で開帳し、コロナ退散と皆様の健康祈願を行いたいと思えます。

奇しくもコロナ禍の真っ只中に疫病退散のご利益のある掛軸が出てきたことは何かの御縁の働きであると存じます。

「南無阿弥陀仏」のお念仏には、あらゆる功德が収められており、煩惱を滅するご利益、罪や悪業を滅するご利益、悪魔降伏（悪を退散させる）のご利益など、多くの伝承があります。

私達は生きていく以上、様々な争いや誘惑などに遭遇します。

つい、相手のせいにしてしまいがちですが、実のところ今の境遇というものは、過去の自分の行いによる因果が巡ってきたものです。

争いの相手に対面するのではなく、お仏壇の仏様に対面し、煩惱を滅するお念仏、過去の悪業を滅するお念仏を唱えてみるのも良いかも知れません。

長い人生のわずかな時間、一日のたった二〜三分間だけでも、唱えてみればその功德の大きさを実感出来るかと存じます。